2022年３月期 第2四半期決算

2021年11月10日

丸文株式会社

東証1部 7537

© 2021 MARUBUN CORPORATION

2022年3月期の第2四半期決算の概要につきましてご説明いたします。

アジェンダ

1. 2022年3月期 第2四半期 連結決算の概要

2.中期経営計画の取組み状況

3. 2022年3月期 業績予想の概要

4.株主還元

5. 参考資料

© 2021 MARUBUN CORPORATION

本日ご説明いたしますアジェンダはご覧の通りです。

2022年３月期 第2四半期 連結決算の概要

© 2021 MARUBUN CORPORATION

2022年３月期 第2四半期 業績サマリ

■ 市場が回復。中期経営計画の各種施策も進み、期初業績予想を大幅に上回る

(百万円)	21/3月期 上期 (従来基準)		22/3月期 上期 (従来基準)			前年同期比 (従来基準)		予想比 (従来基準)	22/3月期 上期 (収益認識基準)
	実 績	構成比	予想 (5/14時点)	実 績	構成比	金 額	%	金額	実績
売上高	**137,268**	**100.0%**	**109,500**	**147,356**	**100.0%**	**+ 10,088**	**7.3%**	**+ 37,856**	**80,574**
デバイス事業	118,982	86.7%	89,000	124,097	84.2%	+ 5,115	4.3%	+ 35,097	57,900
システム事業	18,285	13.3%	20,500	23,260	15.8%	+ 4,975	27.2%	+ 2,760	22,674
売上総利益	**6,905**	**5.0%**	**7,300**	**9,528**	**6.5%**	**+ 2,623**	**38.0%**	**+ 2,228**	**9,417**
販管費	7,484	5.5%	6,700	6,841	4.6%	△ 643	-8.6%	+ 141	6,841
営業利益	**△ 579**	**-**	**600**	**2,686**	**1.8%**	**+ 3,265**	**-**	**+ 2,086**	**2,575**
営業外収益	993	0.7%	125	80	0.1%	△ 913	-91.9%	△ 45	80
営業外費用	395	0.3%	265	598	0.4%	+ 203	51.4%	+ 333	551
経常利益	**18**	**0.0%**	**460**	**2,168**	**1.5%**	**+ 2,150**	**11944.4%**	**+ 1,708**	**2,104**
特別利益	-	0.0%	0	21	0.0%	+ 21	-	+ 21	21
特別損失	116	0.1%	0	4	0.0%	△ 112	-96.6%	+ 4	4
親会社株主に帰属する当期純利益	**△ 64**	**-**	**230**	**1,319**	**0.9%**	**+ 1,383**	**-**	**+ 1,089**	**1,256**

ポイント（前年対比：従来基準ベース）

売上高	（デバイス事業）民生機器・PC周辺機器向け半導体が増加 （システム事業）産業機器・レーザ機器が増加
売上総利益	相対的に利益率の高い商材の伸長により売買差益が増加
営業利益	売上総利益の増加および人件費の減少による増加
経常利益	為替差損327百万円（前期は為替差益867百万円）を計上
当期純利益	前期は特別退職金102百万円を計上

MARUBUN CORPORATION

© 2021 MARUBUN CORPORATION

2022年3月期第2四半期の連結売上高ですが、前年同期比で100億円、7.3%の増加の1,473億円となりました。これは、デバイス事業で既存仕入先の商権が拡大するとともに、新規仕入先商品が伸長したこと、システム事業でも産業機器やレーザ機器が好調に推移したことによるものです。

利益面では、相対的に利益率の高い商材を取り扱うシステム事業の売上が増加したことや、デバイス事業でも利益率が改善したことにより、売上総利益が前年同期比26億円増加の95億円となりました。

販管費は人件費の減少により約6億円削減し、その結果、営業利益は26億円となりました。経常利益につきましては、営業外費用として外貨建て債務の決済差損などにより為替差損を約３億円計上した結果、21億円となりました。

昨年度は業績が振るわず、株主をはじめとした皆さまに大変ご心配をおかけいたしましたが、今期は上期で20億円を超える経常利益を達成することができました。これは、2006年度上期に26億円の経常利益を達成して以来、15期ぶりであり、V字回復を図ることができました。

なお期初の業績予想値と比較しますと、1,095億円を予想した売上高は、34.6%増収の1,473億円、6億円と予想していた営業利益は約4.5倍の26億８千万円、4億6千万円を予想していた経常利益は約4.7倍の21億６千万円、2億3千万円を予想していた四半期純利益は約5.7倍の13億1千万円と、それぞれ大きく増収・増益を果たしたこととなります。

これは、産業機器向けをはじめとした幅広い分野で半導体、電子部品の需要が増加したことや、システム事業で取り扱う電子部品の検査・組立装置や医用機器が好調に推移したことによるものです。

2022年３月期 第2四半期『デバイス事業』品目別売上高

■ PC周辺機器や民生機器の需要増加に加え、ソフトウェア製品が伸長

(百万円)	21/3月期 上期 実績	22/3月期 上期 実績 (従来基準)	増減	主な増減理由	22/3月期 上期 実績 (収益認識基準)
アナログIC	20,259	16,864	△ 3,395	自動車・産業機器向けの減少	16,218
標準ロジック	681	21	△ 660		21
メモリーIC	1,950	2,737	+787		2,737
マイクロプロセッサ	3,009	2,584	△ 424		2,584
特定用途IC	80,555	79,333	△ 1,222	OA機器向けの減少	16,206
カスタムIC	2,157	3,487	+1,331	PC関連機器向けの増加	3,487
電子部品	10,339	19,059	+8,720	民生・自動車向け部品、ソフトウェア製品の増加	16,636
合計	118,982	124,097	+5,115		57,900

MARUBUN CORPORATION

© 2021 MARUBUN CORPORATION

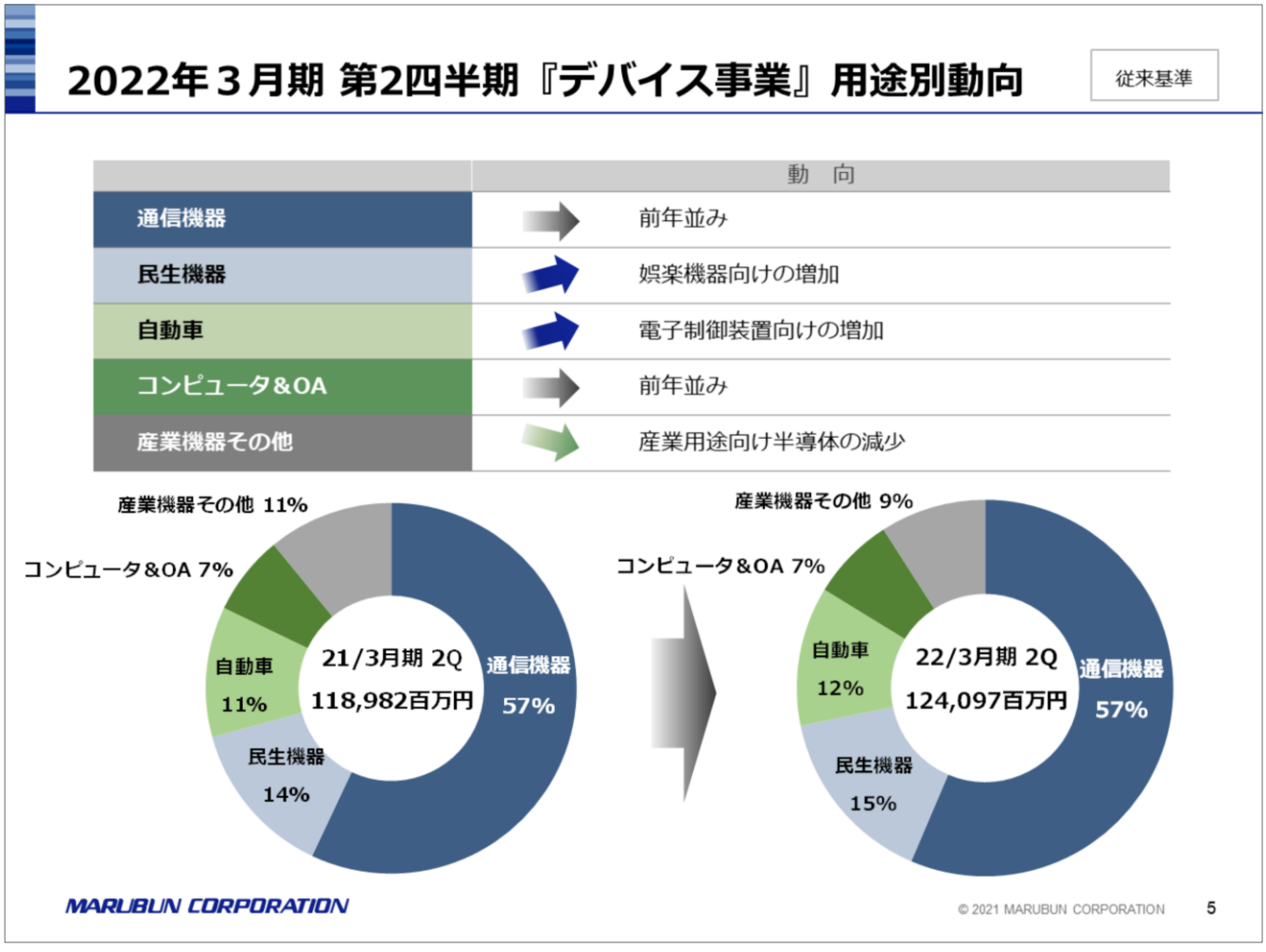
当社の2つの事業セグメント、デバイス事業、システム事業に分けて、今年度第2四半期までの状況についてご説明いたします。

まずデバイス事業についてですが、先ほど申し上げましたように売上高は前年同期の1,189億円から1,240億円に、51億円増加しました。

品目別に見ますと、カスタムICと電子部品の売上が大きく増加し、アナログICや特定用途ICなどの減収分を補いました。

カスタムICが増加したのは、テレワーク需要を背景に、PC周辺機器向けの売上が増加したことによるものです。また電子部品では、民生機器や自動車、産業機器向けが増加し、今期より本格的に取り扱いを開始したソフトウェア製品も大幅に増加しました。

一方で、アナログICの減収は自動車や産業機器向けの売上減少、特定用途ICはプロジェクターなどのOA機器向けの減少がその要因として挙げられます。



デバイス事業の用途別動向は、ご覧の通りとなっております。

売上高は増加しましたが、用途別の売上比率では大きな変化はありませんでした。

自動車、民生機器はそれぞれ1%構成比が上昇した一方で、産業機器その他は2%低下しました。自動車につきましては、さきほど申し上げたように、電子部品、特に電子制御装置向けの売上が増加した一方で、アナログICは減少したというプラス、マイナスの要因が発生した結果であります。また、民生機器向けでは、巣ごもり需要により娯楽機器向けが増加したことが構成比の上昇につながりました。

一方、産業機器向けの低下は、同じくさきほど申し上げましたアナログICの減少によるものです。

2022年３月期 第2四半期『システム事業』品目別売上高

■ 設備投資の回復により、産業機器・レーザ機器が伸長

（百万円）	21/3月期 上期 実績	22/3月期 上期 実績 (従来基準)	増減	主な増減理由	22/3月期 上期 実績 (収益認識基準)
航空宇宙機器	1,374	1,949	+575		1,930
産業機器	7,553	10,230	+2,676	電子部品組立検査装置の増加	9,552
レーザ機器	1,601	2,314	+713	半導体レーザの増加	2,431
情報通信機器	491	683	+192		690
医用機器	7,266	8,083	+817	画像診断装置の増加	8,073
合計	**18,285**	**23,260**	**+4,975**		**22,675**

MARUBUN CORPORATION

© 2021 MARUBUN CORPORATION

次にシステム事業の売上ですが、前年同期の182億円から232億円に49億円増加しました。増収率は約27%となり、大幅に伸長しました。

特に産業機器、レーザ機器、医用機器の売上増加が顕著でした。

産業機器では、電子部品メーカーからの引き合いが活発で、電子部品の組立検査装置が好調に推移し、前年同期比で約27億円の増加となりました。

レーザ機器も、設備投資需要の回復により、半導体レーザの販売が好調で７億円の増加と、前年同期を大きく上回る売上を確保できました。

また医用機器では、画像診断装置やコロナウイルス関連商材の売上が増加しました。

2022年３月期 第2四半期 貸借対照表の概要

(百万円)	21/3月期末 実績	21/9月期末 実績	前期末比 増減額	主な増減要因	
資産合計	**127,006**	**141,275**	**+14,269**		
流動資産	114,804	129,706	+14,902	現金及び預金	△ 3,160
				受取手形及び売掛金	△ 8,465
				商品及び製品	△ 7,838
				未収入金	+34,368
固定資産	12,202	11,569	△ 633	投資その他資産	△ 173
負債合計	**81,966**	**94,579**	**+12,613**		
流動負債	76,165	88,758	+12,593	支払手形及び買掛金	△ 10,776
				短期借入金	+8,252
				未払金	+14,392
固定負債	5,801	5,820	+19	退職給付に係る負債	+41
純資産合計	**45,040**	**46,696**	**+1,656**	利益剰余金	

© 2021 MARUBUN CORPORATION

次に貸借対照表の概要をご説明いたします。

総資産は1,412億円となり、前期末に比べ142億円増加しました。

資産項目で見ますと、現預金が31億円、受取手形および売掛金が84億円、商品および製品が78億円減少する一方で、未収入金が343億円増加しました。未収入金の主な増加理由ですが、収益認識基準の適用により、代理人取引に該当する取引の在庫やお客様への請求予定額を未収入金として計上したことによるものです。

また負債項目につきましては、支払手形および買掛金が107億円減少する一方で、短期借入金が82億円、未払費用が143億円それぞれ増加しました。未払費用の主な増加理由については、未収入金と同様、収益認識基準の適用により、代理人取引に該当する一部取引の仕入金額を計上しております。

中期経営計画の取組み状況

© 2021 MARUBUN CORPORATION

次に当社中期経営計画の上期の取り組み状況についてご説明いたします。

当社は、創業以来の「先見」と「先取」の精神のもと、今年度を最終年度とする中期経営計画で、

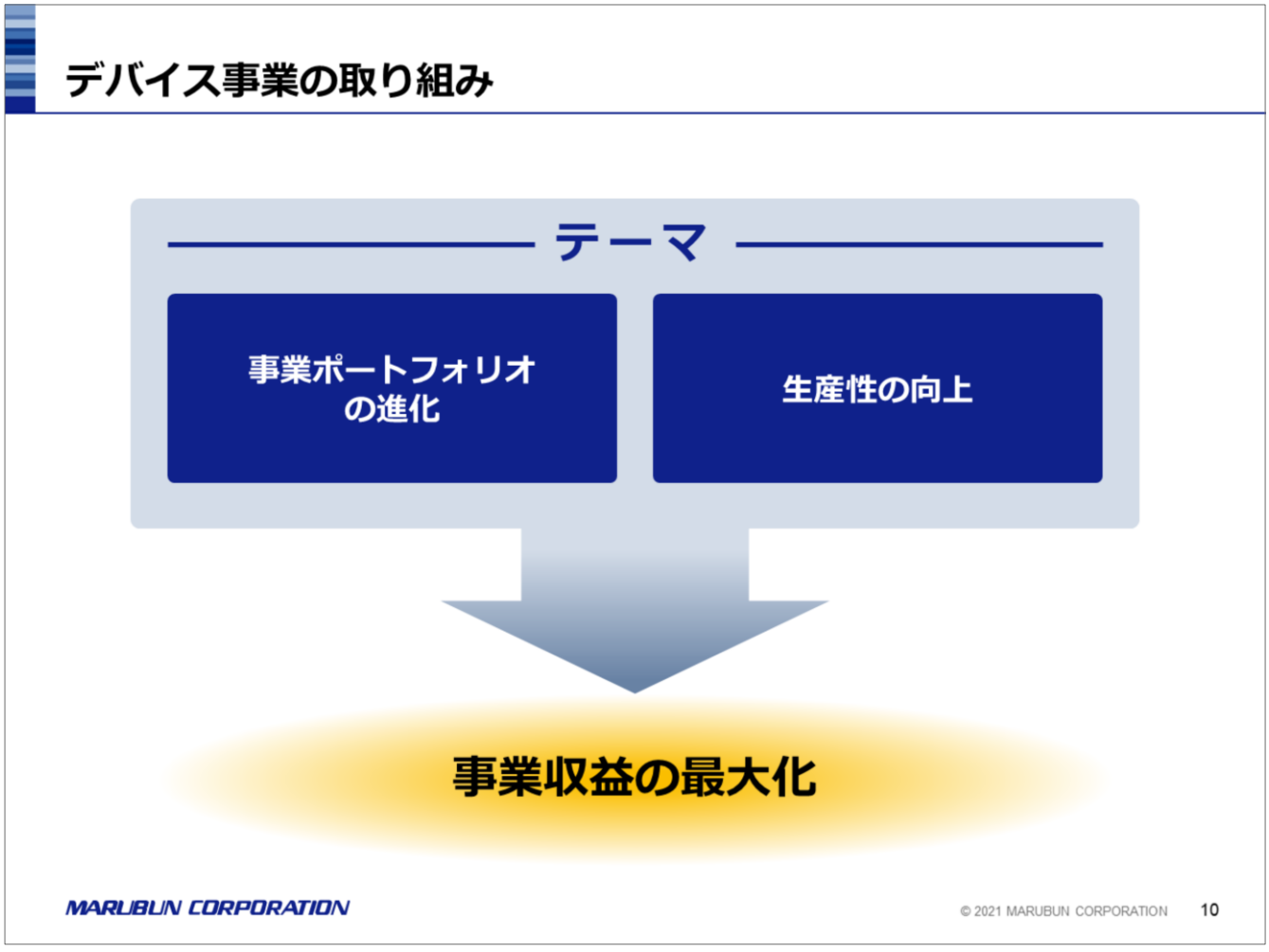
「新たな価値を想像するビジネスモデルの構築」

「成長市場に向けた事業開発の促進」

「持続可能な社会に貢献する取り組みの強化」

の3つの方針を掲げ、事業構造の変革に取り組んでおります。

それでは、デバイス事業、システム事業のセグメントごとに取り組み状況についてご説明いたします。



はじめにデバイス事業の取り組みについてご説明いたします。

当社デバイス事業は、「事業ポートフォリオの進化」と「生産性の向上」をテーマに、事業収益の最大化に向けた取り組みを進めております。

デバイス事業の３つの取組み状況についてご説明いたします。

まず1点目は、「高付加価値ビジネスの推進」です。

付加価値の高い商材の取り扱い、サービスの拡充を目指し、新規の仕入先や新しいお客様の開拓を進め、着実に成果を上げております。昨年度から取り扱いを開始したMPS社の高機能アナログICや既存仕入先の産業用ICとネットワーク向け部品が今年度の売上増加に大きく貢献し、商権も拡大することができました。通信ネットワーク向けではストレージ商品の取り扱いも開始し、ICTインフラ向けソリューションの拡充を図っております。

２点目は「成長市場での事業拡大」です。

情報通信や医療・介護、ＡＩ・ロボティクスなど更なる成長が期待される市場に向けて商材開発に注力し、提案活動を進めております。アイオロス社のAIロボットは、新型コロナウイルスの感染予防のための除菌機能を搭載しており、複数の大手介護施設で試験導入が進んでおります。専用のデモルームを開設し、より積極的なプロモーションを推進しております。またオシア社の空間伝送型ワイヤレス給電技術「Cota（コタ）」については、今年9月にECと英国で認証を取得したことにより、オシア社は米国に続き欧州地域での販売が可能となりました。その他にも、ワイヤレスデータ通信機能を備えたステトミー社の電子聴診器やeYs3D（アイズスリーディ）社のカメラモジュールも新たなラインアップに組み入れ、拡販を進めております。

3点目は「新たなビジネスモデルの構築」です。

当社ではこれまでの半導体を中心とした物品販売に加えて、サブスクリプション契約や知的財産の販売、ソフトウェアライセンスビジネスの推進に取り組んでおります。ソフトウェアビジネスでは、今期よりメインフレーム向けソフトウェアの販売も本格的に開始しました。今後もソフトウェア製品を拡充し、新たなソリューションとして提案していきたいと考えております。

デバイス事業の新規商材

Aeolus Robotics社
AI搭載自律型ロボット

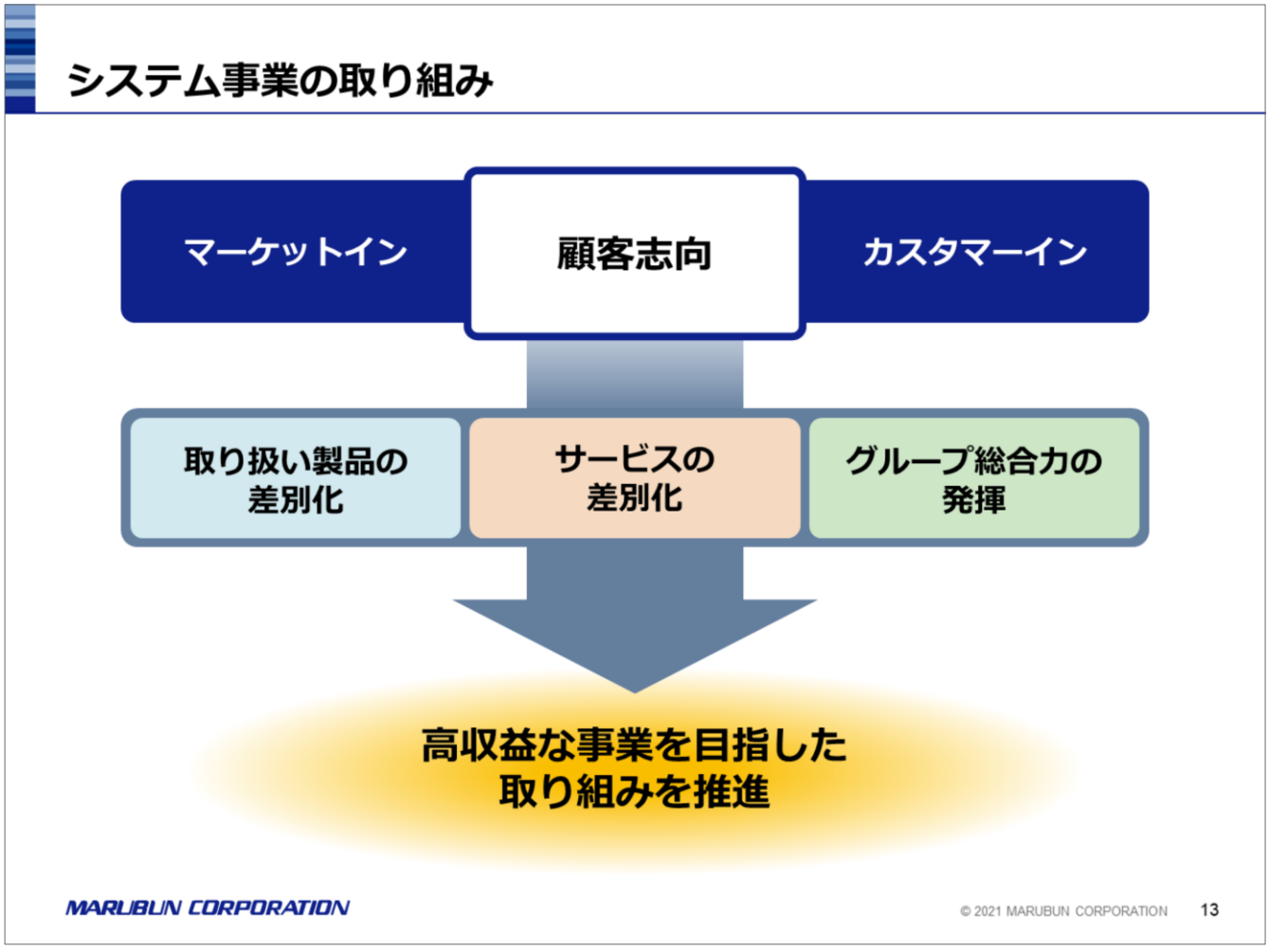
Ossia社
無線給電技術Cotaのイメージ図

StethoMe社
電子聴診器

eYs3D Microelectronics社
ステレオ３Ｄカメラモジュール

ScaleFlux社
Computational Storage Drives

© 2021 MARUBUN CORPORATION



次にシステム事業の取り組みについてご説明いたします。

システム事業では、「マーケットインとカスタマーイン」の顧客志向をベースとして、「取り扱い製品の差別化」・「サービスの差別化」に取り組んでおります。

当社は、機器の保守・メンテナンスや校正サービスを担う企業をグループ内に有しており、製品販売から保守サービスまでのトータルサポートによる差別化で、より高収益な事業を目指した取り組みを推進しております。

それでは、システム事業の５つの取組み状況についてご説明いたします。

まず「航空宇宙」の分野については、近年、民間企業によるロケット打ち上げなどで宇宙ビジネスへの関心が高まり、今後の市場成長が見込まれております。

当社は日本のロケット打ち上げ黎明期から携わっており、その知見・ノウハウを活かして、人工衛星やロケット向けの高信頼性部品の需要の取り込みを進めております。また航空宇宙市場向けのフライトシミュレータに加えて、自動車市場向けにドライビングシミュレータの取扱いを開始し、導入が始まっております。納入後の保守サービスも手掛けており、万全のサポート体制で今後さらに実績を積み重ねていく計画です。

２つ目の「産業機器」ですが、設備投資需要が急回復しております。

当社においては半導体や電子部品の組立検査装置の需要が増加し、上期の売上、利益の伸長に大きく貢献いたしました。今後も先進的かつ高性能な組立・検査・解析装置の取り扱いを拡充し、ビジネス規模の拡大を図ってまいります。またこの分野では工場設備のIoT化を実現するソリューション提供にも注力していく方針で、商材の拡充に取り組んでおります。

3つ目のレーザ機器では、主力商品の産業機器組み込み用半導体レーザの需要が増加傾向にあります。

定期的に開催するウェブセミナーにて、当社が有するレーザ加工技術を紹介し、お客様の課題解決につなげる取り組みを推進しております。また自動車や医療分野をはじめとした様々なアプリケーションへの応用提案も進めており、新たな顧客層の獲得につながっております。

システム事業の重点施策と取り組み状況

4 情報通信機器

- データセンター市場向け販売促進
- 5G・ローカル5Gの市場展開に合わせた商品ラインナップを拡充中

5 医用機器

- コロナウイルス関連商材など 新たな商材を拡充済
- サービスエンジニアリングの育成・強化を推進中

© 2021 MARUBUN CORPORATION

次に情報通信機器についてですが、テレワーク等の影響により通信トラフィック量が増加したデータセンター市場に対してネットワークの性能評価やパフォーマンスのモニタリング製品を提案し、受注を獲得することができました。また5G関連では、キャリアや大手基地局ベンダー向けの5G技術実証支援などの活動を通してノウハウを蓄積しており、市場の本格展開に合わせて商品ラインアップの拡充を進めております。

最後に、医用機器については、当社グループが強みとする地域に根ざした販売・保守サービスの提供に基軸を置き、主力商品である画像診断装置に加え、PCR検査関連などの新たな商材の取扱いにも積極的に取り組んでおります。保守メンテナンスを行うサービスエンジニアの育成、強化にも積極的に取り組んでおり、他社との差別化を図っていく方針です。

以上、デバイス事業、システム事業の取組みをご説明いたしました。

2022年3月期　業績予想の概要

© 2021 MARUBUN CORPORATION

次に2022年3月期通期の業績予想についてご説明いたします。

2022年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	21/3月期 (従来基準)		22/3月期 (従来基準)			前年同期比 (従来基準)		予想比	22/3月期 (収益認識基準)	
	実績	構成比	前回予想 (5/14時点)	今回予想 (10/29発表)	構成比	金 額	%	増減額	今回予想 (10/29発表)	構成比
売上高	**289,283**	**100.0%**	**238,000**	**274,000**	**100.0%**	**△ 15,283**	**-5.3%**	**+ 36,000**	**163,000**	**100.0%**
デバイス事業	242,050	83.7%	188,000	222,000	81.0%	△ 20,050	-8.3%	+ 34,000	112,000	68.7%
システム事業	47,233	16.3%	50,000	52,000	19.0%	+ 4,767	10.1%	+ 2,000	51,000	31.3%
売上総利益	**16,217**	**5.6%**	**17,000**	**19,200**	7.0%	**+ 2,983**	**18.4%**	**+ 2,200**	**19,200**	**11.8%**
販管費	15,193	5.3%	13,800	14,200	5.2%	△ 993	-6.5%	+ 400	14,200	8.7%
営業利益	**1,023**	**0.4%**	**3,200**	**5,000**	1.8%	**+ 3,977**	**388.8%**	**+ 1,800**	**5,000**	**3.1%**
営業外収益	160	0.1%	350	300	0.1%	+ 140	87.5%	△ 50	300	0.2%
営業外費用	1,149	0.4%	550	800	0.3%	△ 349	-30.4%	+ 250	800	0.5%
経常利益	**33**	**0.0%**	**3,000**	**4,500**	1.6%	**+ 4,467**	**13536.4%**	**+ 1,500**	**4,500**	**2.8%**
特別利益	31	0.0%	-	55	0.0%	+ 24	77.4%	+ 55	55	0.0%
特別損失	2,603	0.9%	-	5	0.0%	△ 2,598	-99.8%	+ 5	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	**△ 2,133**	**-0.7%**	**1,900**	**2,900**	1.1%	**+ 5,033**	**-**	**+ 1,000**	**2,900**	**1.8%**

ポイント（前年対比：従来基準ベース）

売上高	（デバイス事業）通信機器向けの減少を見込む （システム事業）産業機器・レーザ機器の増加を見込む
売上総利益	付加価値の高い商材の取扱い増加により増益を見込む
営業利益	売上総利益の増加および人件費を中心とした販管費の減少により増益を見込む

MARUBUN CORPORATION

© 2021 MARUBUN CORPORATION

当社は10月29日に業績予想値を上方修正いたしました。

今回の修正により、2022年3月期の連結売上高は収益認識基準ベースで1,630億円となる見込みです。これを従来基準に換算しますと2,740億円となり、5月に開示しました従来基準の業績予想2,380億円と比較しますと、360億円の増収となっております。一方、前年対比では、売上高は152億円の減収となる見込みです。これはデバイス事業で通信機器向け半導体の減少を見込んでいることによるものです。

セグメント別の売上高は、デバイス事業で200億円減少の2,220億円、システム事業で47億円増加の520億円となる見通しです。

利益面では、上半期の業績が当初計画より大幅に伸長した結果、営業利益は前年より39億円増加の50億円、経常利益は44億円増加の45億円、当期純利益は前期の21億円の損失から29億円の利益に転じる見通しです。

2022年3月期 『デバイス事業』品目別売上高予想

■電子部品やPC関連機器向けICの販売伸長を見込むものの、通信機器向けICが減少

(百万円)	21/3月期 実績	22/3月期 予想 (従来基準)	22/3月期 予想 (従来基準)	増減	主な増減理由	22/3月期予想 (収益認識基準)
アナログIC	34,791	36,372	32,176	△ 2,615	自動車・産業機器向けの減少	32,176
標準ロジック	758	74	42	△ 716		42
メモリーIC	5,018	5,623	5,584	+565		5,584
マイクロプロセッサ	5,612	7,719	3,473	△ 2,139	産業機器・自動車向けの減少	3,473
特定用途IC	165,057	106,894	135,907	△ 29,150	通信機器向けの減少	30,633
カスタムIC	4,550	1,155	6,792	+2,241	PC関連機器向けの増加	6,792
電子部品	26,264	30,162	38,025	+11,761	民生・産業機器向け部品、ソフトウェア製品の増加	33,299
合計	242,050	188,000	222,000	△ 20,052		112,000

MARUBUN CORPORATION

© 2021 MARUBUN CORPORATION

次に売上の増減要因についてご説明します。

デバイス事業は2,220 億円の売上を見込んでおります。昨今の報道にもあります通り、市場は半導体不足の状況にあります。業績への影響をご懸念されていることと存じますが、当社は仕入先半導体メーカーが供給可能な数量をもとに、通期の売上高の予想値を設定しました。

品目別に見ますと、上期と同じく電子部品とカスタムICで増加を見込んでおります。

電子部品は民生機器向け部品やソフトウェア製品が増加し、カスタムICはPC周辺機器向けの需要増を見込んでおります。一方、アナログIC、マイクロプロセッサ、特定用途ICは減少する見通しです。アナログICとマイクロプロセッサは、自動車および産業機器向けの減少を見込んでおります。

特定用途ICは、上期ではOA機器向けで12億円の減収と申し上げましたが、下期は通信機器向けが大幅に減少する見通しで、通期で291億円の減収となる見込みです。

2022年3月期 『システム事業』品目別売上高予想

■ 設備投資需要の回復で、産業機器やレーザ機器の増加を見込む

(百万円)	21/3月期 実績	22/3月期予想 (従来基準)	増減	主な増減理由	22/3月期予想 (収益認識基準)
航空宇宙機器	4,355	5,497	+1,142	人工衛星向け高信頼性部品の増加	5,429
産業機器	18,207	20,547	+2,339	電子部品の組立・検査装置の増加	19,625
レーザ機器	3,642	5,584	+1,942	半導体レーザ・レーザ加工装置の増加	5,584
情報通信機器	1,820	2,393	+572	データセンター向け通信機器の増加	2,392
医用機器	19,208	17,980	△ 1,228	医用機器保守の減少	17,970
合計	47,233	52,000	+4,767		51,000

MARUBUN CORPORATION

© 2021 MARUBUN CORPORATION

システム事業については、産業機器やレーザ機器、航空宇宙機器の増加を見込み、前期から47億円増加の520億円の売上を見込んでおります。

産業機器は、電子部品の組立・検査装置の増加を見込んでおります。

レーザ機器では、足元好調に推移している半導体レーザの増加に加え、レーザ加工装置の増加を見込んでおります。

航空宇宙機器では、人工衛星搭載用の高信頼性部品や衛星アンテナ向け部品の増加を見込んでおります。

一方、医用機器では、上期については、先程申し上げましたように画像診断装置などの伸長により8億円の増収となりましたが、コロナウイルス感染症の影響を受けて、医療施設への訪問が制限され、機器の保守サービス提供が計画を下回って進捗しているため、通期では前年度より12億円の減収となる見込みです。

株主還元

© 2021 MARUBUN CORPORATION

最後に株主還元についてご説明いたします。

株主還元

配当方針

配当性向　　連結30%以上を目安として決定

配当予想

	21/3月期	22/3月期 (予想)
1株当たり年間配当金(円)	**16.00**	**30.00**
中間配当	8.00	10.00
期末配当	8.00	20.00
配当性向(%)	―	27.0%

© 2021 MARUBUN CORPORATION

中間配当は、10円、期末配当20円の予定で、2022年3月期の年間配当は30円を予定しております。

前期に比べ14円の増配となり、配当性向は27%となる見通しです。

丸文株式会社

当社は10月29日に、2022年4月に移行が予定されている東京証券取引所の新市場区分において、「プライム市場」を選択することを決議いたしました。

当社はプライム市場上場会社として、皆様のご期待に応えられるよう、グループ一丸となって業績の向上とコーポレートガバナンス体制の整備に取り組んでまいります。皆様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

参考資料

© 2021 MARUBUN CORPORATION

企業概況

会社概要

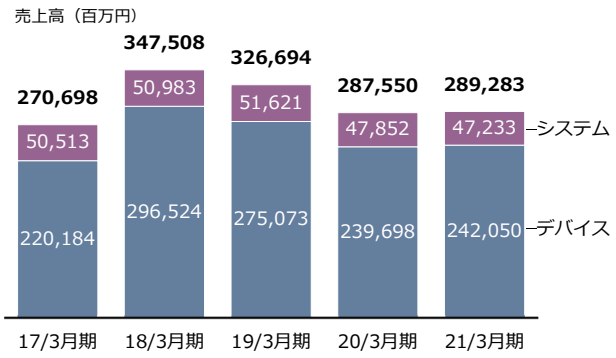
創　　業	1844年（弘化元年）
設　　立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長　飯野亨
売 上 高	連結　2,892億円（2021年３月期） 単体　2,374億円（2021年３月期）
従業員数	連結　1,145名（2021年3月末） 単体　　613名（2021年3月末）
株式上場	東京証券取引所　市場第一部（コード:7537）

事業領域

デバイス事業
- 半導体
- 電子部品

システム事業
- 航空宇宙機器
- 産業機器
- レーザ機器
- 情報通信機器
- 医用機器

連結売上高の推移



© 2021 MARUBUN CORPORATION

沿　革

国　内

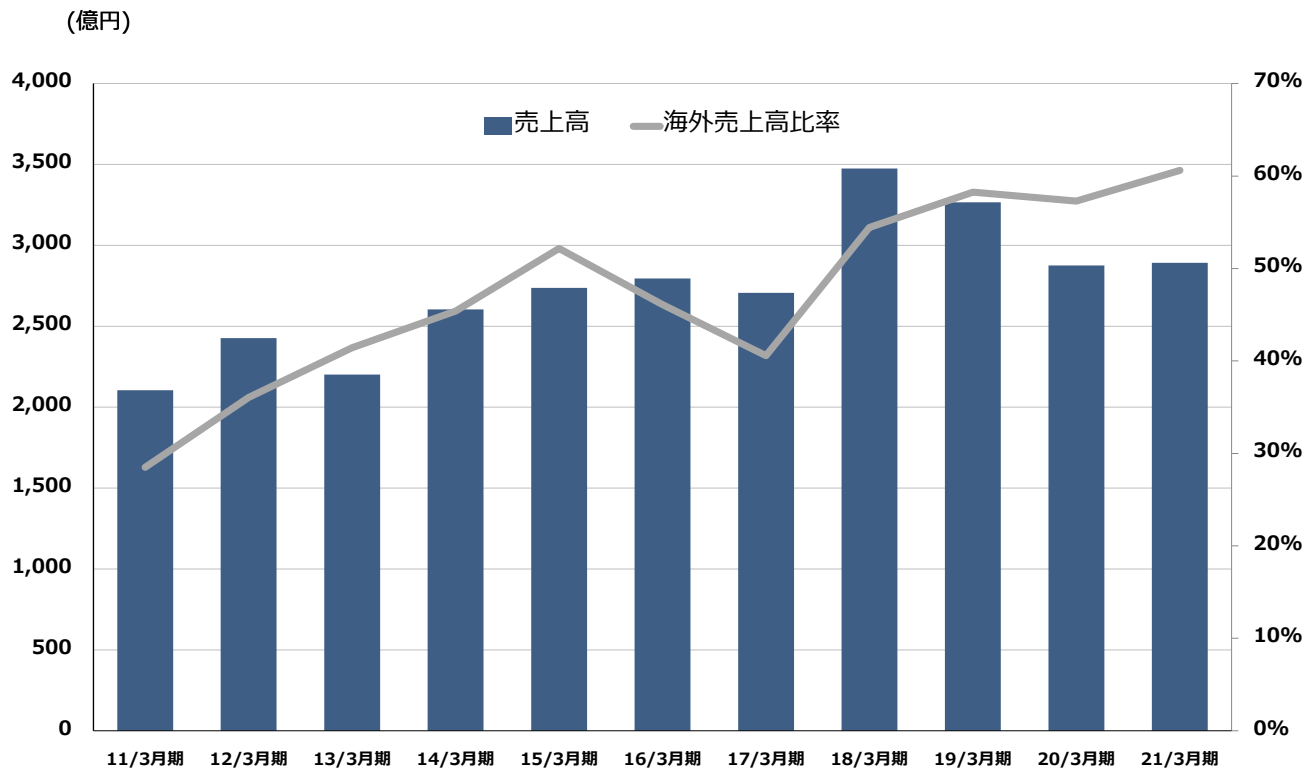
2019 丸文通商が北信理化を吸収合併
2018 ケィティーエルを吸収合併
2016 ケィティーエルを子会社化
2015 池田医療電機を子会社化
2013 北信理化を子会社化
2007 フォーサイトテクノを子会社化
2005 丸文ウエストを設立
2001 東京証券取引所市場第一部上場
1997 東京証券取引所市場第二部上場
1985 物流機能強化のため、物流センターを設置
1965 **Texas Instruments社製集積回路を国内で初めて輸入販売**
1961 金沢支店を分社し、丸文通商を設立
1952 Rocke International社と代理店契約し、独自での米国製機器の輸入販売を開始
1947 **機械器具、日用雑貨類の販売と輸出入を目的に丸文株式会社を設立**
1897 呉服問屋を停止し、資産管理を目的に堀越事務所を設立
1844 **現本社所在地で呉服問屋「堀越」（屋号「丸文」）を創業**

海　外

2017 ハンガリーに現地法人を設立
2014 インドネシア、メキシコに現地法人を設立
2013 深せんに現地法人を設立
2006 マレーシアに現地法人を設立
2002 フィリピン、上海に現地法人を設立
2001 タイに現地法人を設立
1999 **米国Arrow Electronics社と折半出資でMarubun/Arrow USA,LLCを設立**
1998 **米国Arrow Electronics社と折半出資でMarubun/Arrow Asia,Ltd.を設立**
1994 香港に現地法人を設立
1989 台湾に現地法人を設立
1988 シンガポールに現地法人を設立
1968 米国駐在事務所を設置

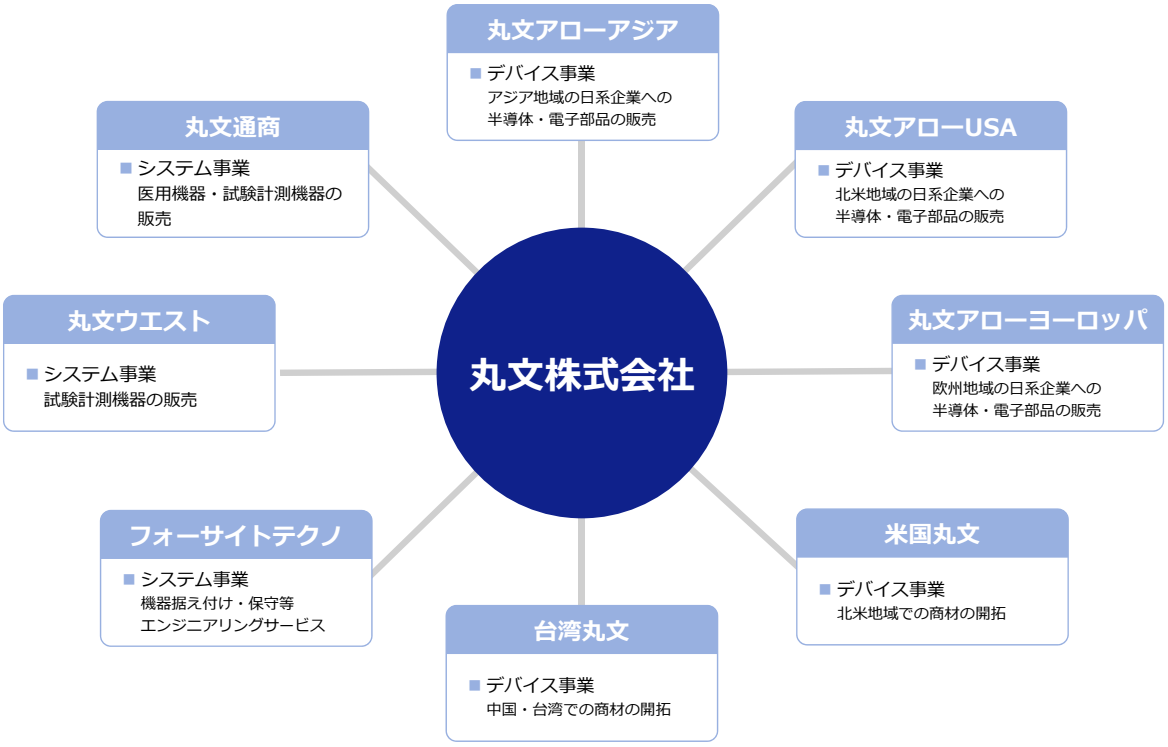
© 2021 MARUBUN CORPORATION

中長期トレンド（売上高・海外売上高比率）



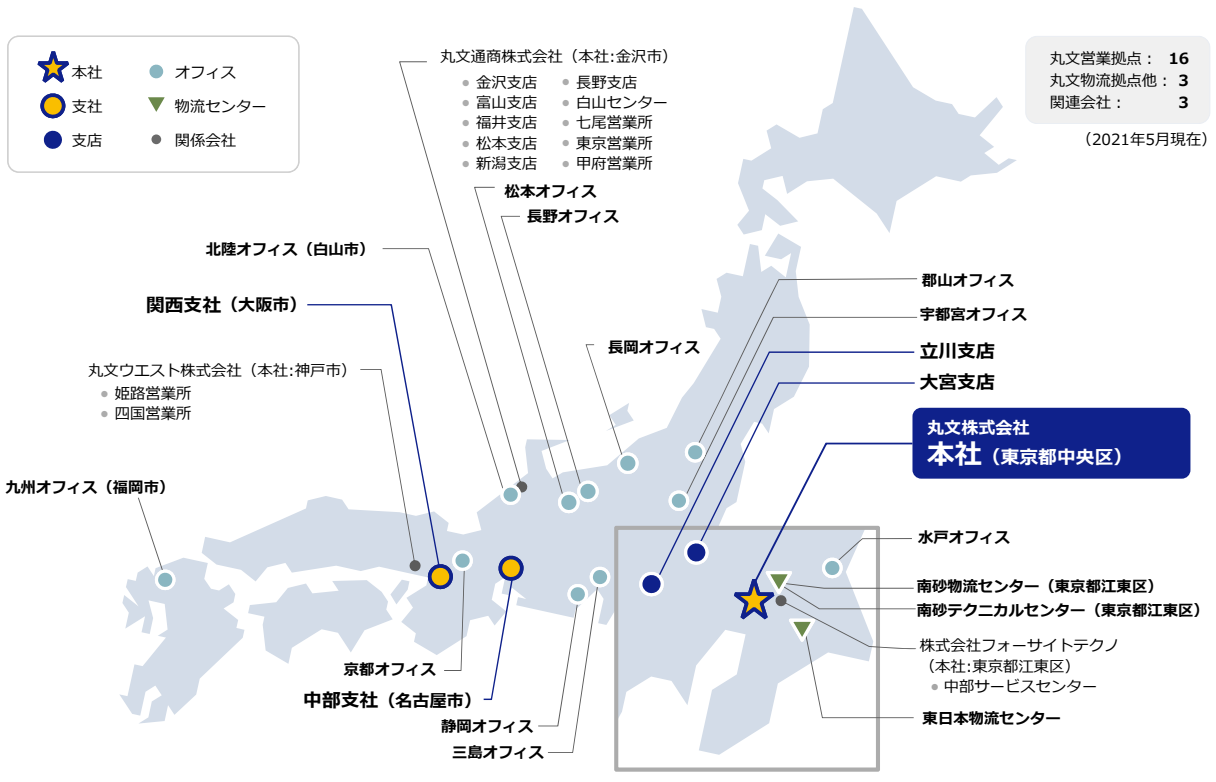
© 2021 MARUBUN CORPORATION

関係会社



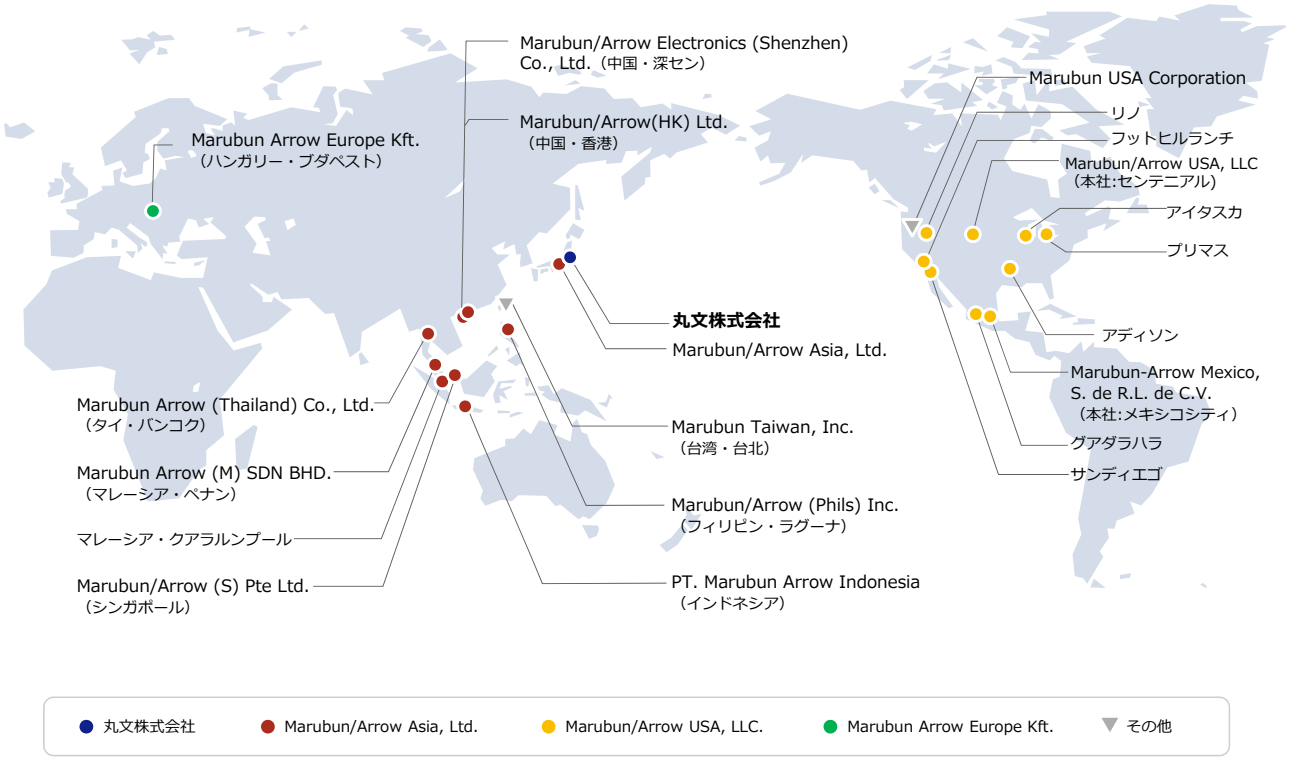
© 2021 MARUBUN CORPORATION

国内拠点



© 2021 MARUBUN CORPORATION

グローバルネットワーク



（2021年5月現在）

© 2021 MARUBUN CORPORATION

提供価値

グローバルサポート

- アローエレクトロニクスとの協業
- 丸文アローによるワールドワイドで日本品質のサポート

豊富なラインカードと製品相互のシナジー

- 国内外の競争力のあるサプライヤをラインナップ
- 標準品からカスタムまで幅広い取扱製品

提供価値

システムソリューション

- 高い専門性をもつ強力な技術サポート体制
- 3rdパーティ、モジュールメーカ、EMS/ODM等との協業関係

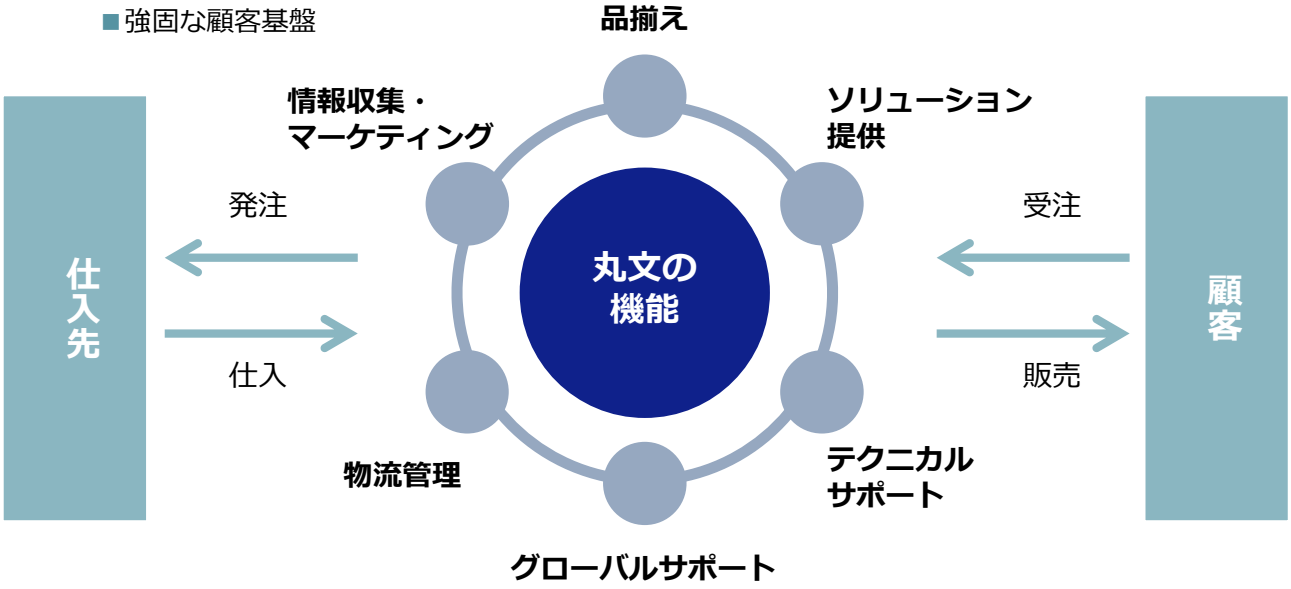
長年にわたる取引で培われた強固な顧客基盤

- 国内電子機器メーカーを中心とする強固な顧客基盤

© 2021 MARUBUN CORPORATION

デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社との提携によるグローバルネットワーク
- 高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- 強固な顧客基盤



© 2021 MARUBUN CORPORATION

デバイス事業：グループ会社概要

社　名	住　所	設立年月	出資比率	事業内容
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50%	丸文アローシンガポール、丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Pereira Road, Singapore	1988年3月	50%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50%	海外進出した日系企業への半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow Electronics (Shenzhen) Co., Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50%	
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50%	

* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

© 2021 MARUBUN CORPORATION

デバイス事業：主要取扱い製品

品目 / 主要仕入先（アルファベット順）	半導体					電子部品		
	アナログIC	メモリーIC	マイクロプロセッサ	特定用途IC	カスタムIC	電子部品	電子機器	その他
	標準アナログ、センサー、ディスクリートなど	フラッシュ、DRAMなど	MPU、MCU、DSPなど	ASSP、LEDなど	カスタム、ASIC、FPGAなど	ディスプレイ、水晶振動子、コネクタ・スイッチ・基板など	ロボット、IoT機器、医療機器など	パワーサプライ、ボードPC、ソフトウエア、IPライセンスなど
エイブリック	●	●						
Afero				●			●	●
旭化成エレクトロニクス	●		●	●	●			
ATP		●						
Autotalks				●				
Broadcom	●			●	●	●	●	●
Cree	●							
Cypress※1		●	●	●				
Eink						●		
InvenSense	●							
ISSI	●	●		●				
GOWIN					●			
Littelfuse	●					●		
Maxim	●		●	●		●		
Microchip	●	●	●	●	●	●		
Molex						●		
MPS※2	●							
Nuvoton	●		●	●	●			
Qorvo	●			●				
セイコーエプソン			●	●	●	●	●	
SEMTECH	●			●				
TE Connectivity	●					●		
VANTIQ								●
VICOR								●
VISHAY	●			●				●
Western Digital		●						

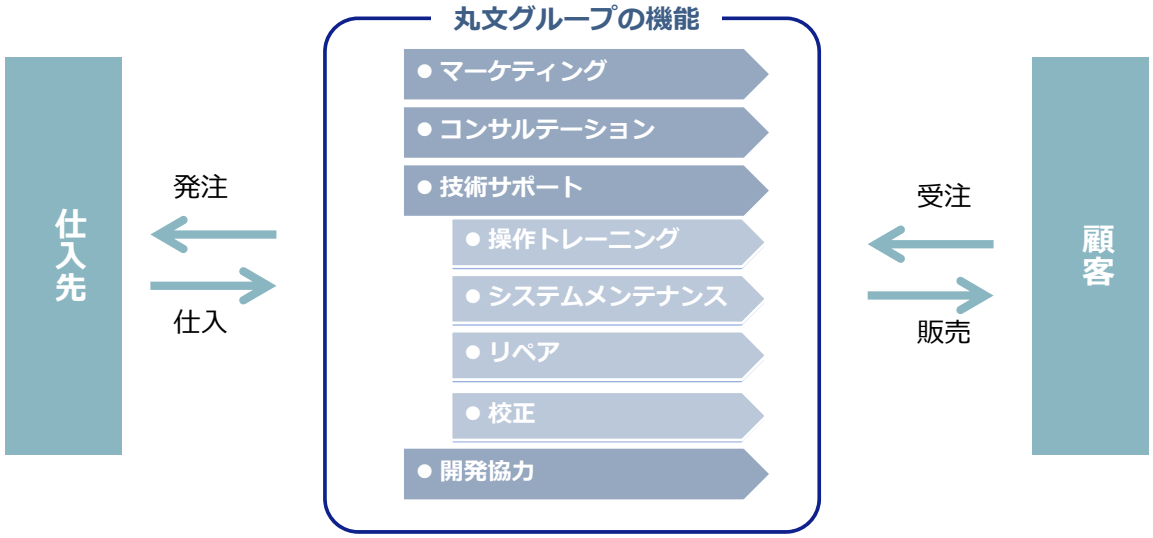
*1:Cypress Semiconductor, An Infineon Technologies Company *2:Monolithic Power Systems.Inc,

Aeolus	AI搭載ロボット	Acconeer	ミリ波レーダモジュール	FINsix	超小型電力モジュール
Nanoramic	カーボンナノチューブ	OSSIA	ワイヤレス給電技術ライセンス	StethoMe	電子聴診器

© 2021 MARUBUN CORPORATION

システム事業：特徴と強み

■ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
■システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



© 2021 MARUBUN CORPORATION

システム事業：グループ会社概要

社　名	本　社	設立年月	出資比率	事　業　内　容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100%	医用機器および試験計測機器の 仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51%	システム製品の修理・メンテナンス、 エンジニアリングサービス

© 2021 MARUBUN CORPORATION

システム事業：主要取扱い製品①

分野	主要取扱商品	主要仕入先
航空宇宙機器	宇宙関連機器 計測・各種センサ	日本ベーカーヒューズ（株）、 Comtech Telecommunications Corp.、PCB Piezotronics, Inc
	航空関連機器 高周波電子機器	Bird Technologies、CPI Inc、Textron Systems Corporation
産業機器	検査装置 製造装置・組立装置	アキム㈱、Ansible Motion Limited、セイコーエプソン㈱、㈱FUJI、㈱ユー・エイチ・システム
	組込ソリューション	ADLINK Technology Inc、Aitech Defense Systems,Inc.、 Artesyn Embedded Technologies Inc.、DFI、Gorilla Technology Inc.
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	Amplitude、Laserline GmbH.、nLIGHT, Inc.、 NUTECH GmbH
	光学機器	Excelitas Technologies Corp.、First Sensor AG、Luminus,Inc、United Power Research Technology Corp.、ViALUX GmbH、Young Optics Inc.
情報通信機器	RF・光通信 測位タイミング	Athonet S.R.L、Calnex Solutions Ltd.、EXFO Inc.、 Microchip Technology Inc.、PCTEL,Inc、Septentrio N.V.、Spirent Communications
医用機器	画像診断機器	コニカミノルタジャパン㈱、㈱島津製作所、シーメンスヘルスケア㈱、 富士フイルムヘルスケア㈱
	人工透析機器	旭化成メディカル㈱、㈱カネカメディックス、日機装㈱、
	臨床検査機器	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス㈱、ベックマンコールター㈱

© 2021 MARUBUN CORPORATION

システム事業：主要取扱い製品②

航空宇宙機器

BEI Sensors社
高信頼性部品

CPI社
マイクロ波電子管

産業機器

島津製作所
ガスクロマトグラフ質量分析計

アキム
電子部品組立装置

FEI社
赤外線発熱解析装置

FUJI
大気圧プラズマ表面改質装置

© 2021 MARUBUN CORPORATION

システム事業：主要取扱い製品③

レーザ機器

nLIGHT社
組込み用半導体レーザ

Laserline社
レーザー加工装置

情報通信機器

Microchip社
ネットワークタイムサーバー

Spirent社
GNSSシミュレータ

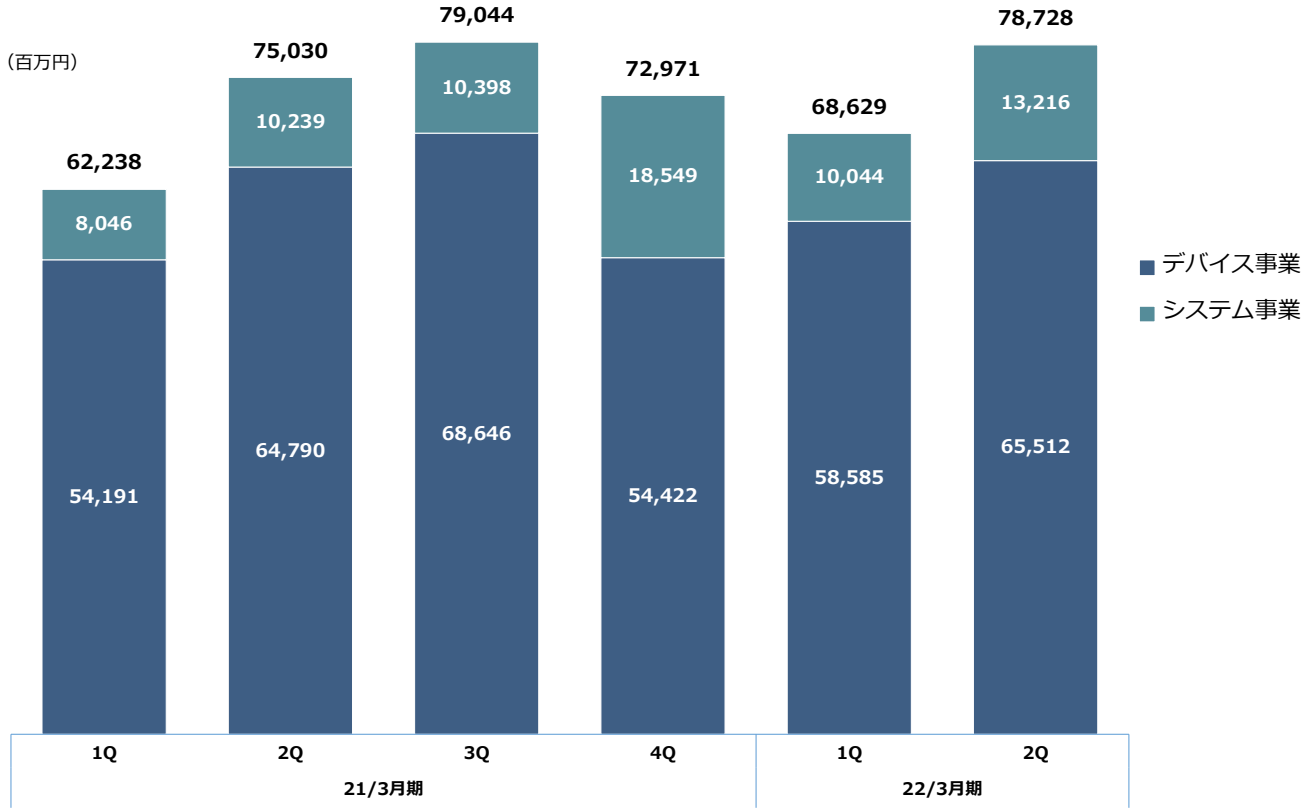
医用機器

シーメンスヘルスケア社
X線CT装置

© 2021 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（事業別売上高）

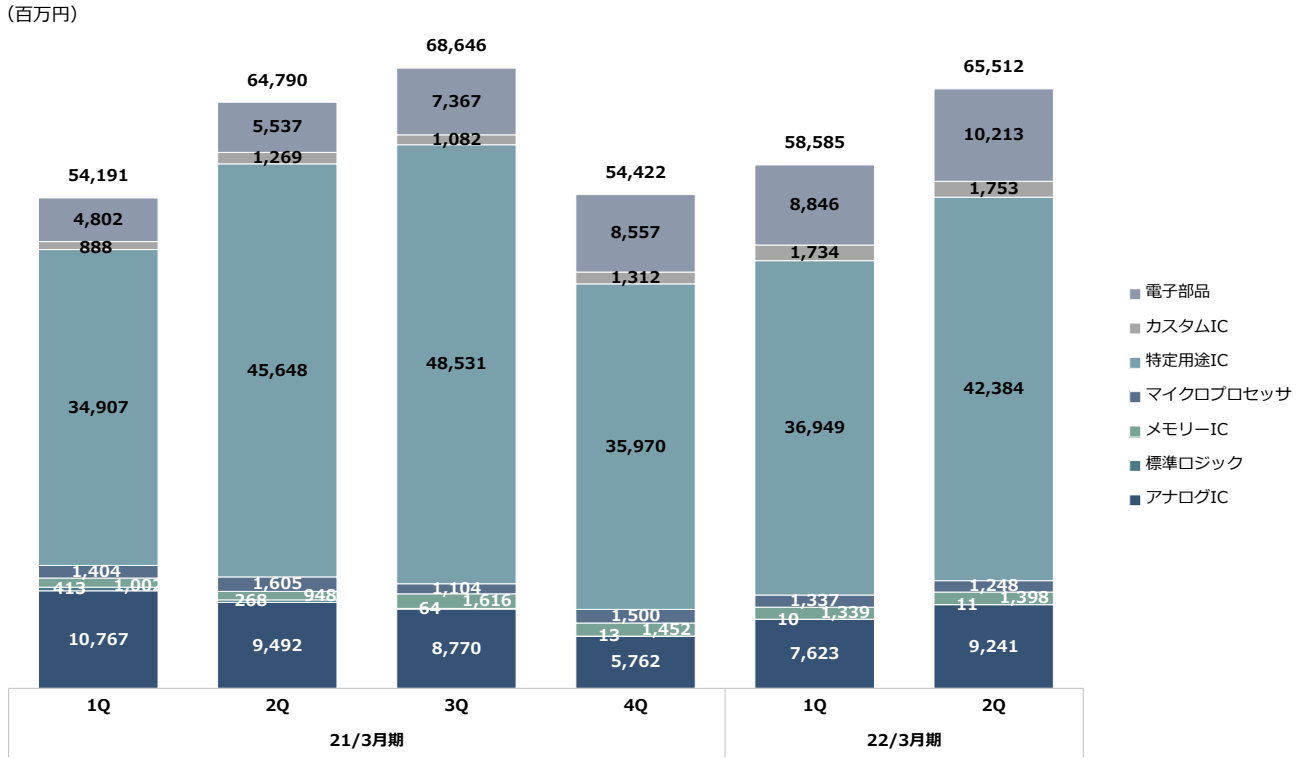
従来基準



© 2021 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）

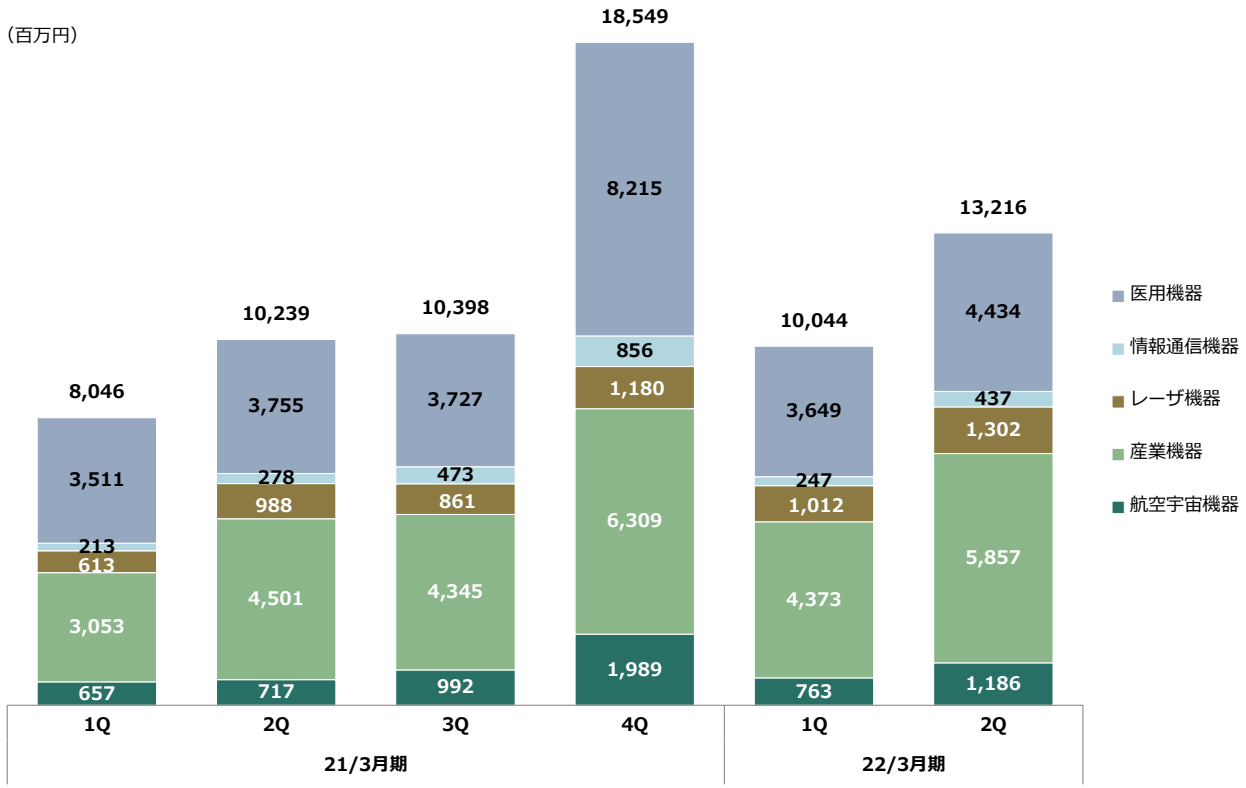
従来基準



© 2021 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）

従来基準



© 2021 MARUBUN CORPORATION

本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社　経営企画部

E-mail　ir@marubun.co.jp

© 2021 MARUBUN CORPORATION